船場

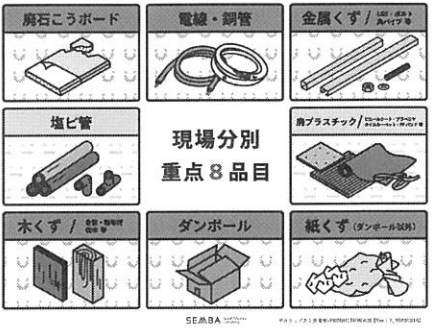
関係事業者の連携で進むリサイクル

三本の柱で進める環境への取り組み

本社を東京におき内装の設計や工事を手掛ける船場は、「つくる」だけでなく「つかう」や「すてる」まで責任を持った空間づくりを目指し、施工・解体現場での廃棄物の分別、混合廃棄物の削減に取り組んでいる。2024年に同社が請け負った全ての施工案件の1次リサイクル率（※）平均94%を達成した。

同社の取り組みはゼロウエイスト、エシカルマテリアル、リプロダクトの3本の柱からなっている。

ゼロウエイストは、解体工事業者、廃棄物処理業者などと連携し、解体現場から発生する廃棄物を分別し、高いリサイクル率を実現する。エシカルマテリアルは、独自の選定基準と視点で選定しており、約100社の建材・原材料メーカーから情報を収集し、使い終わった後のリサイクル方法や、再生資源の活用方法を研究する活動となる。リプロダクトは、価値を生かしきれていない資源や、捨てられてしまうものを活用して家具の制作を行う。社会課題の解決をプロジェクトの起点に置きデザインに生かしていく取り組みとなる。担当するデザイナーは解体現場や、地域課題の現場に直接出向き、課題解決とデザインを結び付けていく。



現場で8種類に分別

分別ボックスでリサイクル率を向上

内装工事の解体現場からの廃棄物は品目が多く、分別が困難な状況では混合廃棄物として中間処分場へ受け渡すのが一般的となっている。近年の内装仕上げは複合的に素材を組み合わせているため、中間処分場での分別にかかる労力も大きくなり、リサイクルできる素材が埋立処分されることも少なくないという。

これらの問題に向き合うため、同社は20年にゼロウエイスト推進室を設立した。ここで最初に行われたのは、分断されがちだった施工会社、解体工事会社、収集運搬会社、中間処分会社、リサイクル会社など、空間づくりの川上から川下までの各関係企業に協力を仰ぐところから取り組みを開始した。

分別された廃棄物

同社製品であるconnec®

対話をしていく中で、工事現場から排出する際に廃棄物を素材ごとに細かく分別することで、その先の中間処分会社の負担を減らし、最終的にリサイクル率を高めることができると考え、21年より廃棄物の分別排出を開始。八つの重点分別品目を掲げ、現場での分別を始めた。工事現場での分別の負担をできるだけ減らすため、協力企業と何度も試行錯誤を重ね、現在では、船場が施工を請け負う全ての現場で廃棄物の分別排出を行うことができるようになったという。

この取り組みを主導した同社の上席執行役員の神戸暁氏は「私のキャリアは設計職が長かったのですが、以前は施工現場で廃棄にどのような課題があるか、受け取ってくれる業者さんの大変さ、こういったことが十分理解できていませんでした。そのため、工事現場で排出される廃棄物が、その後どのように処理されているのか理解するために、中間処理業者のプラントに伺い、実際のリサイクル処理の現場を複数見学し、対話を重ねることで、混合廃棄物を減らすことができるようになっていきました」と話している。

また一部の案件では、中間処分以降のトレーサビリティにも取り組んでおり、「電通デジタル本社オフィス」の内装工事では、1次リサイクル率の集計のみでなく、同社が分別排出した廃棄物の最終処分会社での再資源化量の算出に成功。1次リサイクル率100%、最終リサイクル率99%を達成している。

また「1次リサイクル率」を社内でタイムリーに把握するため、素材ごとの排出数値をマニフェストから集計し、リアルタイムに閲覧できる仕組みを構築した。施工を請け負う全ての案件を対象とし、20年には73・3%であった平均1次リサイクル率は現在では94%まで上昇している。

廃棄されるモノをデザインで新たな命を

同社ではリサイクルだけではなく、工事の際に発生する廃材や、地域の未利用資源などを用いたアップサイクルも積極的に行っている。

ある学生寮の共用部のデザインには、国産広葉樹の新しい価値を生み出す取り組みとして、枝分かれ部分や切り株、細い端材などをデザインに生かしたテーブルやアートパネルを制作した。さらに、QRコードから家具にまつわるストーリーを提示することで、多くの人に理解を促す。またあるシェアオフィスのデザインでは、築45年以上の建物をリノベーションし、廃棄物を意匠に転換した。可能な限り修繕して残せるように検討し、それでも排出されてしまう廃棄物や製造時に出る端材を、家具や仕上げ材にアップサイクルすることで、最終的に廃棄物のリサイクル率95・6%を達成した。また、地域で発生する製材端材なども積極的に用い、机やランプシェードなどあらゆる部材に生かしている。

また廃棄される予定だったキッチカウンターの部材や、製材として不向きとされている広葉樹材を用いて、エシカルな家具「つながるつくえ connec®」を自社製品として製造している。同社が進めているさまざまな取り組みについては、多くの協創パートナーと連携することで行われている。12月5～7日には、同社と協創パートナーが集まり、エシカルデザインウィークを東京原宿で開催する予定だ。

※現場で出た全廃棄物量のうち、マニフェストの排出品目ごとに分別した割合を船場では1次リサイクルと定義している。